

市立病院 連載コラム 経営再建の軌跡

市立病院では、令和3年3月に策定した「経営再建計画」に基づき、経営改善に取り組んでいます。本コラムでは、収益向上策や費用削減策、新たな取り組みなどを、隔月で連載します。

〔詳細〕市立病院経営改善担当 ☎ 382-5151

第2回 減資～収支構造の見える化～

■地方公営企業における減資とは？

市立病院決算書の貸借対照表では、資本金と累積欠損金の双方が大きな金額となっており、経営実態と乖離した状況になっています。平成24年の地方公営企業法の改正で、このような実態と乖離した累積欠損金を解消するため、議会の議決を得て資本金を減少（減資）し、累積欠損金と相殺することが認められました。

減資を実施することで、解消すべき累積欠損金が明確になり、経営状況をわかりやすく、市民の皆さんへお示しすることができるようになります。

Q. 累積欠損金とは？

A. 累積欠損金は、返済義務のある「負債」（借入金など）とは異なり、過去の企業活動によって生じた各事業年度の欠損（赤字）を積み上げたものです。

市立病院では経営が安定しない時期もあったため、昭和38年度から現在までの間に、117.3億円の累積欠損金が生じていました。

Q. 資本金を減らしても大丈夫？

A. 資本金（繰入資本金）は、財産的な価値を持つ「資産」（現金など）とは異なり、一般会計から受け入れた繰入金金額を積み上げた会計上の数値です。

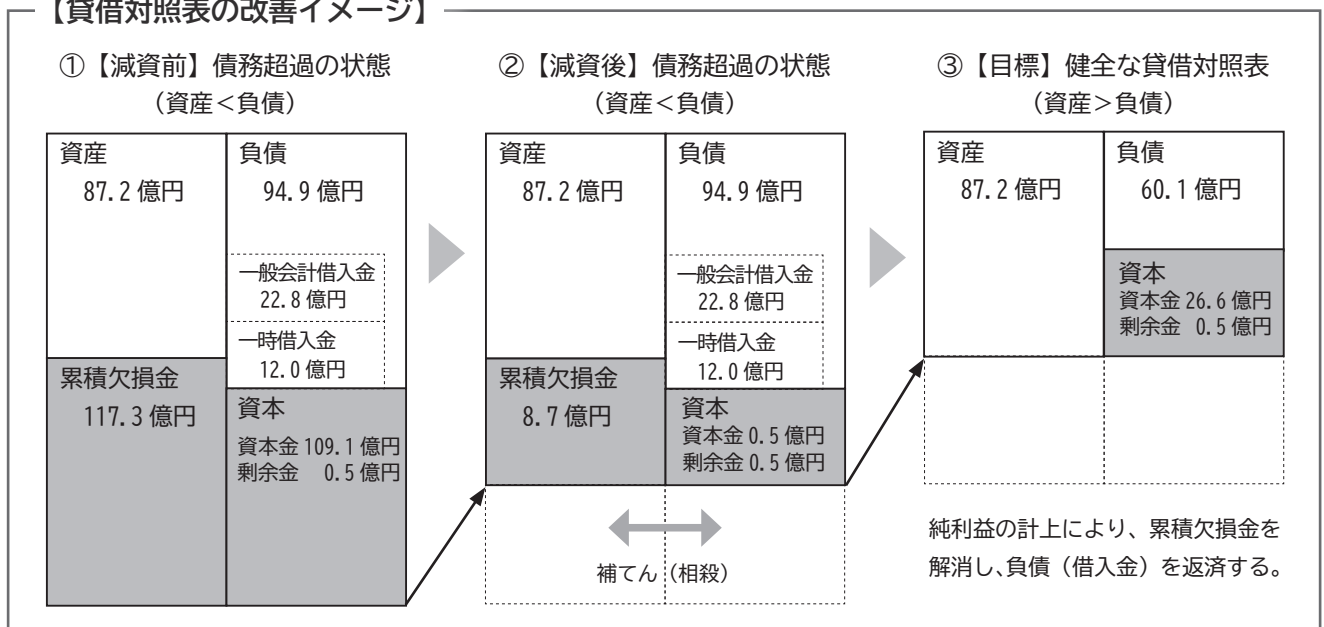
民間企業では、資本金が信用力を示すものとして評価されますが、自治体が経営する地方公営企業では、資本金を減少したとしても信用力に影響はなく、事業運営での支障は生じないとされています。

■減資で何を指すの？～貸借対照表の改善イメージ～

市立病院では、減資の実施を貸借対照表の改善（財務基盤の強化）に向けた第一歩として位置付けています。まず、①【減資前】が現状で、資本金と累積欠損金の双方が100億円を超える大きな金額になっています。次に、②【減資後】は資本金と累積欠損金が相殺され、本来解消すべき累積欠損金（8.7億円）が明確になります。

このように解消すべき累積欠損金を明確にすることで、③【目標】の健全な貸借対照表を目指した取り組みが進めやすくなります。

【貸借対照表の改善イメージ】



■今後に向けて

市立病院は、令和4年4月に地方公営企業法の全部適用に移行し、新たな経営体制になりました。これを機に、経営評価委員会のご意見を伺いながら、減資の実施に向けて準備を進めています。

今後も、経営再建計画の達成に向け、引き続き改善への取り組みを進めてまいります。